

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーション能力をスキルアップする。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考え、説得力を磨いていく。
授業計画 Syllabus	①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解など ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明・立論・尋問・反駁 ⑪ディベートⅡ 三角ロジック ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ ロジックの構造 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので休まずに出席すること。 とくに後半の演習では、グループ内のメンバーに迷惑をかけるので休まないこと。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーション能力をスキルアップする。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考え、説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解など ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明・立論・尋問・反駁 ⑪ディベートⅡ 三角ロジック ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ ロジックの構造 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。 とくに後半の演習では、グループのメンバーに迷惑をかけるので休まないこと。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、自己紹介、自分の得意分野をプレゼンしたり、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「自分ブランド」を確立します。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦 ⑥聴く技術 ⑦面接の技術を磨く ⑧自分の得意分野をプレゼンする ⑨演劇的手法を学ぶ ⑩自分ブランドとは何か？ ⑪「10年後の自分」を語る ⑫人の態度を読む ⑬敬語の役割と種類 ⑭笑いを取る ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。 そのため「演劇手法」なども取り入れます。
評価方法 Evaluation	平常点～30%、普段の表現の進歩～40%、スピーチの成果～30%です
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、自己紹介、自分の得意分野をプレゼンしたり、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「自分ブランド」を確立します。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦 ⑥聴く技術 ⑦面接の技術を磨く ⑧自分の得意分野をプレゼンする ⑨演劇的手法を学ぶ ⑩自分ブランドとは何か？ ⑪「10年後の自分」を語る ⑫人の態度を読む ⑬敬語の役割と種類 ⑭笑いを取る ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。 そのため「演劇手法」なども取り入れます。
評価方法 Evaluation	平常点～30%、普段の表現の進歩～40%、スピーチの成果～30%です
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ディベートを実践し、審査にも加わることで客観的な判断力を身につける。 対極からの論理構築と議論の強弱を判断することで、問題解決能力を涵養する。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践I 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践II ショートディベート演習1 ⑥ディベート実践III ショートディベート演習2 ⑦ディベートI 論理の構造・ディベート準備 ⑧ディベートII ディベート演習1 ⑨ディベートIII ディベート演習2 ⑩サッカーディベートI 説得の構造・ディベート準備 ⑪サッカーディベートII サッカーディベート演習1 ⑫サッカーディベートIII サッカーディベート演習2・ディベート準備 ⑬ロングディベートI ロングディベート演習1 ⑭ロングディベートII ロングディベート演習2・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	出欠点（欠席した場合は減点）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	出席・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	